

2019年7月26日

2019年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大原スポーツ医療保育福祉専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園大原スポーツ医療保育福祉専門学校関係者評価委員会は、平成30年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

1. 実施日

2019年7月26日

2. 学校関係者評価委員

藤澤 賢之 氏	(社会福祉法人 ふじ乃里 ふじ保育園)
山崎 良恵 氏	(社会福祉法人 生喜会 生喜庵)
鹿児嶋 隆夫 氏	(医療法人慈豊会)
木瀬 備基 氏	(新田塚コミュニティ株式会社)
五藤 裕貴子 氏	(キムラ株式会社)
岩本 吉生 氏	(株式会社ローズガーデン)
細野 敬治 氏	(株式会社セツコ)
上野 恭裕 氏	(有限会社 シュトラウス金進堂)

(事務局)

赤星 哲志	(大原学園福井校 校長)
小倉 豪円	(大原学園福井校 副校長)
川上 浩司	(大原学園福井校 副校長 兼 教務部長)
山内 博樹	(大原学園福井校教務部 課長)
成田 裕行	(大原学園福井校教務部 課長)
齋藤 大	(大原学園福井校教務部 課長補佐)
玉木 千春	(大原学園福井校教務部 課長補佐)
中野 成一	(大原学園福井校教務部 課長補佐)

3. 平成30年度 自己点検・評価の概要

大原スポーツ医療保育福祉専門学校の平成30年度における自己点検・評価については、全般的に良好な結果であった。

学校運営は、意思決定システムが確立されており、円滑な運営が行われている。また、教育理念に基づいた運営方針が明確に定められており、教育理念を達成するための事業計画の策定、各種研修制度の確立を通じて有為な人材育成が行えている。なお、予算計画・執行は規定に従って適切に行なわれており、財務状況も安定している。

昨年度は重点課題を「幸せな就職と実社会で即戦力となる人材育成教育」「資格取得率の向上と実践的な知識習得」「保護者との連携強化」の3点を中心に改善を図っている。

まず、30年度も継続して高い内定率（民間企業100%）を達成することが出来ている。

昨年度、教育課程編成委員からの提言により、実学教育と人格育成教育を盛り込んだ教育ストーリーのブラッシュアップにより、多くの学生が就職先の特性に合った技能を身に付けることが出来ている。

次に、資格取得においても、一部の資格試験において難易度の上昇により、検定全体の全国合格率が低下する中、本校では保育士、各種スポーツ等の資格試験において高い合格率を維持しており、教育イベントにおいても、スポーツフェスティバル等の学校行事やボランティア活動を通じて、学生の主体性や対人対応力が発揮され、学生の人格育成を図ることができている。

また、保護者との連携においても、出席状況及び成績の月次報告発送や行事案内等の定期メール配信を行い、教育に対する理解浸透に努めた。

4. 2019年度 重点目標1

「幸せな就職と実社会で即戦力となる人材育成教育」をテーマとした就職教育の充実

<現状・達成指標>

内定率は十分な成果を上げることが出来ている。本人の長所・特性を把握し、適切な就職指導を実施すること、内定後の調査結果を精査の上、満足度向上を図る。

<具体的方策>

学生の社会常識力が年々低下傾向にあるため、入学直後のオリエンテーション時から就職教育を意識させる指導を行う。入学直後の段階から社会常識等を意識・身につけさせることで、高い内定率を維持する。また、実務教育としての現場実習では、実習前教育と実習後フォローを行い、個々の課題を明確化させることで指導を強化し、情報収集と適格な対応により「幸せな就職と実社会で即戦力となる人材育成教育」を実現に取り組む。

<学校関係者評価委員からの提言>

多くの大原卒業生が社会で活躍している。これから社会に巣立つ後輩にも期待している。

②学生の社会常識力の低下について、入学直後から教育プログラムに組み込んで対応している点は評価できる。教育内容を更に充実させ、社会貢献を果たせる人材教育を行って欲しい。

③本人の特性を生かせる教育および本人の長所を振り返る機会を提供した上で、取得資格を選択させることで、即戦力として活躍できる人材を輩出して欲しい。

④実務教育としての現場実習で、実習前教育と実習後フォローを行い、幸せな就職と即戦力となる実力を身につけている事が分かった。

5. 2019年度 重点目標2

資格取得率の向上と実践的な知識習得

<現状・達成指標>

資格取得実績は安定的に維持できている。一方で、社会のニーズの変化や制度の改定などにより、受験対策の環境が変化している資格が増加傾向にある。

教員は、常に最新の知識、実務の情報とあわせて、高い指導力、講義力を身に付け、合格実績の更なる向上を図る。

<具体的方策>

企業等と連携し組織的に教員研修を実施継続する。

学科ごとに目指す試験の制度や業界ニーズに合わせてとともに各種検定試験の情報収集、教材・カリキュラムの改定、指導方法の研究検討会及び教員研修を実施する。教育訓練給付金制度の認可を受け希望者が学習しやすい、制度を利用した環境を提供している。

<学校関係者評価委員からの提言>

①単なる資格取得のみならず、社会で即戦力となる知識習得も踏まえた教育を引き続き実践し、社会で即戦力となる卒業生を引き続き輩出して欲しい。

②近年の政治・経済情勢のめまぐるしい変化に応じて、実社会で要求される内容は刻一刻と変化している。その変化に対応するための知識習得・研究を引き続き行い、教員の指導力向上を更に進めて欲しい。

③引き続き、実践的な技能を身につけさせる教育の導入を押し進めてほしい。

6. 2019年度 重点目標3

保護者との連携強化

<現状・達成指標>

欠席超過、就職支援等、問題を抱えている学生について、保護者に連絡を行い、連携して対処している。校内行事等にも参加頂き、安心と信頼の構築を図りたい。

<具体的方策>

保護者に対して、月次報告の発送、行事案内等を定期的にメール配信するなど、教育

に対する更なる理解浸透を図る。

＜学校関係者評価委員からの提言＞

保護者との連携は、学生の社会人としての基本行動・生活習慣の醸成に役立つと思われるので、今後とも関係各所と連携しながら、学生を成長させて頂きたい。

7. 学校評価全体に対する評価

自己評価結果については、適正であると評価できる。

大原スポーツ医療保育福祉門学校の教育成果及び学生指導並びに学校運営の取組みについて、企業、卒業生の視点から検証を行った。

自己評価結果は妥当であると評価できる。

現状として、学生、保護者はもちろんのこと、学生を採用する企業でも当校では、良い教育を提供できていると思われる。

近年の政治・経済情勢のめまぐるしい変化に対応した教育を提供すること、専門性が高く社会で即戦力となる人材育成を担うことに変化はないが、現状に満足することなく、社会から専門学校に求められる知識・技能教育について、常により良い教育が出来るよう取り組んで欲しい。

今年度、重点課題を3点に絞り込んで改善活動に取り組んでいる点は良いと思うが、学校運営の事情から現時点で取組みが行なわれていない項目がある。これらについて、将来的に取り組みを検討して欲しい。

8. 学校関係者委員会総括

学生の「幸せな就職と実社会で即戦力となる人材育成教育」を教育テーマに掲げて、教職員全員が一丸となって学校運営・教育活動に取り組んでいる。とりわけ、多くの大原卒業生が実社会で活躍していることは、社会的貢献の意味で非常に大きな役割を果たしている。

また、各学科ともにそれぞれの修業年限の中で、社会で即戦力となる知識技能や社会性を向上させる教育を提供していると思われる。大原スポーツ医療保育福祉専門学校の特徴として、教員と学生の距離が非常に近い学校であり、様々な場面で学生とコミュニケーションを図り、学生の特性を踏まえた上での指導が、素晴らしい教育成果を上げている原点であろうと推察される。学習相談のみならず、日々の生活における悩みなども教員・保護者と共有解決しながら、学生が成長していく姿が想像できる。

今後も「幸せな就職と実社会で即戦力となる人材育成教育」を永続的に実現するには、社会の変化に対応した教育プログラムの開発・改訂・提供を行うことが重要と考えられるため、重点課題の改善に向けた取り組みの中で反映させて欲しい。

学校関係者一同、客観的な視点から様々な提言を投げかけることにより、当校が社会の信頼を益々得られるようにサポートして行きたいと思う。